令和３年度　福井県立福井東特別支援学校　学校関係者評価書

（問）　・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他

（意見を聞いた方）
就労継続支援Ａ型事業所長、障害福祉サービス事業所代表理事、
福井東特別支援学校ＰＴＡ会長

○教育課程・学習指導・研究研修
・コロナ禍で活動が難しい状況の中でも目標値に対して高い割合を保っている。教職員が日々尽力し、意欲を持って取り組んでいると感じる。
・多様な障がい、障がいの程度が大きく異なる中、常に創意工夫に満ちた取組をしている。
・「発信する力」「自分の意見を伝える力」を育てることが大切である。
・進路先のリサーチ（就労企業の変化や新規の福祉施設）も重視してほしい。
・退院までにもニーズの変化や体調の波がある。変化に適応できる柔軟な体制を大切にしてほしい。
・指導力向上のため、保護者に対する助言や指導体制構築を引き続き検討してほしい。

○家庭・地域との連携　進路指導
・最終的に生徒、保護者が納得いく進路が決定できたのは良かった。
・交流及び共同学習は、共同制作など、具体的な「モノ」を介するとよいのではないか。
・進路指導は、３～６ヶ月前倒しした活動計画を検討すべきである。
・卒業後も交流ができるように、ＰＴＡなどでの交流には大きく力を入れてほしい。
・医療的ケアが必要な方の受け皿が少ない。幼少期からお親御さんの学び、情報収集の場、問題意識が必要と感じる。

○安全・安心
・教員も成果を感じ、保護者も高評価で良かった。
・感染対策をはじめ、健康管理においては非常に高い水準で取り組んでいる。

○生徒指導
・コロナ禍でも大変工夫していたと感じる。
・休みがちな生徒に向けて、スポーツも重要だが、コロナ禍の現状では作品作りなど、ものづくりに力を入れて参加を促してほしい。

○教育支援
・担当校のコーディネーターの評価が高く、目標達成できて良かった。
・過去事例やＱ＆Ａなどの作成も大事である。
・「相談しやすい気軽な雰囲気」も大切にしてほしい。
・他の相談機関との違いが明確になると望ましい。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）
　コロナ禍で、様々な制約がある中ではあったが、学校祭や修学旅行など、主な行事は行うことができ、遠隔で交流を行ったりなど、工夫をしながら教育活動を行った。その結果、ほとんどの目標に対しておおむね良好な評価を得られた。ただ、集合しての行事が縮小されたことで、保護者間のつながりに課題が残ったが、様々な工夫を重ねながら課題を解決していきたい。
　今後も、児童生徒一人一人に対しての細かい支援と配慮を行いながら、児童生徒や保護者、地域の方々から信頼される学校づくりに邁進していきたい。